BUSINESS TALK

ビジネストーク

「自立」

頭取 **大道 良夫**

「地方創生」の取り組みがいよいよ本格化します。政府主導でのスタートですが、その成否は、ひとえに地域社会ごとの取り組み次第、つまりは各自治体、そして住民の「自立」の気概と行動にかかると考えます。すなわち、「地方創生」は地域の将来を地域自らが描き、覚悟と責任を持って実行し、〝未来〟を創造することに他なりません。

近江八幡市の「八幡靴」。長い伝統を誇り、手縫いで仕上げる高級靴として高い評価を得てきました。しかし、昨今は安価な輸入品に押され、後継者不足などもあり、必ずしも業績好調とはいえない状況でした。

この「八幡靴」の復活を願って、「クラウドファンディング」を活用したユニークな取り組みが始まっています。インターネットを通じて多くの人々から小口出資を受けることにより、その人々に「八幡靴」のサポーター兼ファンになってもらおうとの取り組みです。さらに、容易に立体造形ができる「3Dプリンター」を使っての足形製作も進行中です。

まさに伝統の技と、新しい発想、最新技術の融合で、コストダウンと販路拡大、ブランド力の向上による「八幡靴」の復権が期待されています。他にも、長浜市の「黒壁」のブランド力向上や琵琶湖の淡水真珠養殖事業などでも「クラウドファンディング」の取り組みが活用されています。

一方、「地域おこし」の取り組みも県内で広がっています。見事な石垣で「日本100名城」に選ばれている観音寺城跡（近江八幡市安土町）では、竹やぶに覆われた石垣をボランティアなどが清掃、整備する「石垣整備プロジェクト」が展開されています。「伐採した竹の向こうに石垣が当時の姿を現した時には心が震えた」と参加者。また、多くの地域で地元産品を融合・活用して付加価値を高める「6次産業化」事業なども展開されています。他にも、県内では「自立」の精神によるさまざまな取り組み、例えば、奥伊吹レクリエーション施設の新設や高島版着地型観光、またソフトコンテンツである忍者を活用した滋賀の魅力創出・魅力アップ事業なども
すでに始まっています。

「地方創生」では、地域の柔軟な「発想」と果敢な「実行」が求められます。湖国には、琵琶湖をはじめ、他にはない多様で魅力的な地域資源があります。この「強み」をさらに生かして、滋賀ならではの産業を育成し雇用を創出、若者の地域定着を図り、さらに活気ある地域を、と願います。

地域と共に歩む当行は、これらの活動を全力でサポートし、地域の活性化とさらなる振興につなげていくことこそが使命であると改めて認識している次第です。